

地層のグラデーション！ボーリング調査を見学しました！

令和7年1月31日



1月23日（木）に、岡山市南区古新田交差点付近（国道2号）にてボーリング調査を見学しましたので、その様子をお伝えします。



今回の現場は
ここです！



（電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成）

活動内容

既に今回のボーリング調査は終了していたので、採取した土を見せていただきました！1番左の砂礫の混じった層が「**支持層**」といい、土台になる最も大事な層です。

全体を見ると深さごとに土の種類が異なっているのが分かると思います。各層で**貝**が混じっていたり、**粘土の柔らかい層**があったりして興味深かったです。

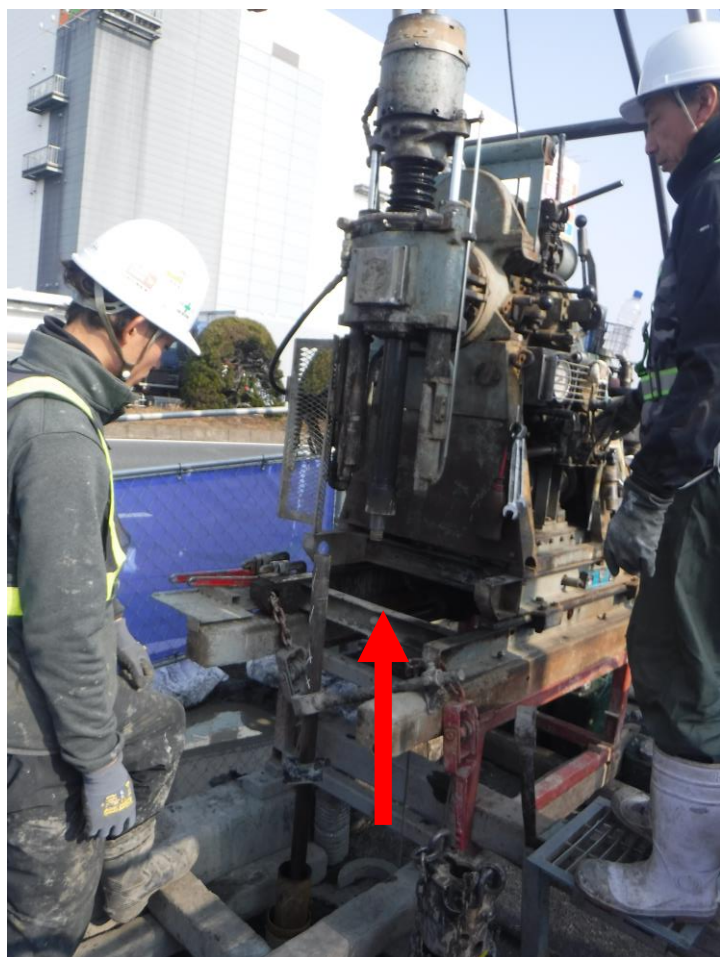


粘土層は**ぷにぷに**していました。



ボーリングを実際に行う装置です。
3m程の高さがあります。

この周囲の地下には水道管などの埋設管も多くありますが、「**事前に埋設物の有無を確認して、十分気をつけながら掘ってますよ**」と現場の方から言葉を頂きました。私は普段占用物件を取り扱っているのです、大変心強いお言葉でした。



中が空洞になっている棒
(**ロッド**)を地中から引き抜
いている様子です。**赤矢印**の
方向に引き抜いています。

地下から引き抜いていく様子
をいつまで続くんだろうと見
ていると、最終的にロッドを
全部で**11本**引き抜いており、
地中深くまで調査しているん
だなと感心しました。



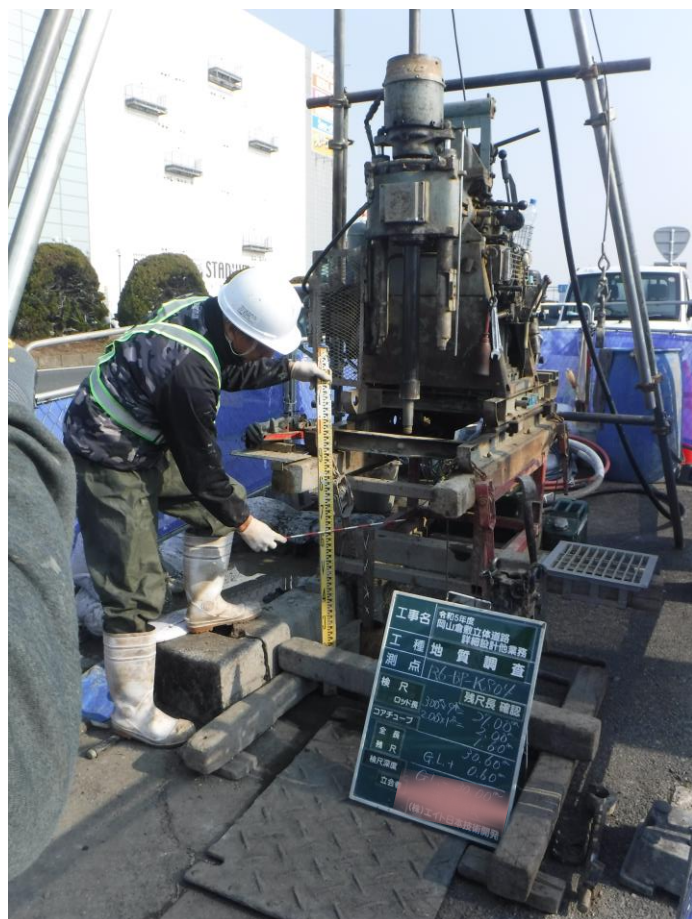
全てのロッドを抜き終わりました。
3mが9本、2mが1本、1.6mが1本で合計30.6mの深さまで調査していたことが分かります！



写真にある空洞が土を溜めていく部分です。今回は採取後だったので中は空っぽでした。
この写真の1番右にある大きな棒は「**コアチューブ**」といい、ロッドを地下まで挿入した時に一番下にくる棒です。この棒が回転して地下を掘削するため、非常に丈夫な構造になっています。



検尺をオンラインで行っている様子です！
 検尺とは数量や長さ・深さなどを確認することです。
 最近では作業のオンライン化が進み、現場に行かずに発注者が
 数量等を確認する機会が増えています。
 今回はW係長がオンラインで確認を行いました。



「検尺をオンラインで行う
 と、実物を触って確認する
 ことなどができませんが、
 いつでもどこでも参加でき
 るのが大きなメリットで
 す！」



W係長
5



ボーリング調査を行う穴です。コップほどの大きさの穴で、思っていたより小さかったので驚きました。
この空洞を覗くとき、空洞もまたこちらを覗いているのかも知れません。

最後に

いかがでしたでしょうか。
今回はボーリング調査の最後の部分を見て頂きました。
今回特に印象に残ったのは、ボーリング調査で採取した土を実際に触れたことです。地層の上部はぷにぷにの粘土層でしたが、30m付近は固くて丈夫な層でした。実際の岡山倉敷立体の工事では**支持層**まで届いた頑丈な基礎を完成させます！



記事作成：管理第一課 |